

令和7年度

「運営に関する計画・自己評価」

最終評価



小中一貫校大池学園
大阪市立大池中学校

令和8年3月

大阪市立大池中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

令和3年度、生野区西部地域学校再編整備計画により、第1次再編として、校区の中川小学校と御幸森小学校が統廃合され、大池小学校が誕生した。そして令和4年度には第2次再編として、大池小学校に舍利寺小学校の一部の児童が加わり、大阪市初の連携型小中一貫教育を推進する『小中一貫校大池学園』として統合された。

組織編成から始まり、合同研修会や研究授業、授業参観などの教職員の交流、および児童生徒の交流など、大池小学校との連携を深め教育目標達成に努めている。また、ユネスコスクールの認定を目指し、教育内容の精選や取組の意義を整理し、実践しているところである。

学力面において、前年度中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において前年と比較すると3年生の国語は+4.6ポイント、数学は-5.7ポイントとなり、2年生の国語では-1.0ポイント、数学は+4.0ポイントと学年ごとに教科に差が生じた。指導方法の工夫を踏まえ個に応じた指導を推進していく。

学校評価アンケートの話し合い活動についての肯定的回答は、87.3ポイントと前年度を上回る値となり改善がみられた。また、学校の年度目標に関して、「学校の授業の予習や復習をしている」の肯定的回答の割合は生徒49.5%・保護者46.2%と向上がみられる。さらに、英検を受検することで学習意欲が高まった割合も66.9%(昨年度60.0%)と、昨年度を上回った。

全国体力運動能力調査による体力総合点で、男子42.3(R5:36.3・R4:43.1)、女子は46.5(R5:48.6・R4:40.7)と、男子の向上が特に大きい。体力・運動能力においては、部活動との関連も深く、生徒の基本的な生活習慣の安定化に大きく影響している。部活動参加生徒に対するプレイヤーズファーストについて教員の意識も高まり、今後の部活動の在り方や目的を円滑に考えながら体力・運動能力の維持・向上に努めていきたい。

安心して成長できる安全な学校の実現に向け、「いじめはいつ起こってもおかしくない」を前提に全教職員による早期発見に努めるとともに、生じた事案についてはいじめ対策委員会にて検討を行い早期解決が図れるよう複数の教員で組織的に取り組んでいる。

生徒への学校規則の遵守や規範意識向上にも取り組み、生徒アンケートによる「命の大切さや社会のルールを守っている」の肯定的な回答の割合は高く、自尊感情や生命を大切にする心の醸成がみられる。

教職員の働き方について、平日の勤務時間の超過は大きく減少したが、部活動指導時間は、公式試合や、総合文化祭やコンクールなどの大きな発表会のための練習に土日休日の一定時間が費やされており、職務への意欲との均衡が課題になっている。

ICT機器の活用が進み、教材作成や情報周知等での負担軽減は図られている。

中期目標

(※ → …達成状況)

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査における「学校の規則を守っていますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を95%以上にする。 → 98.5% ○
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を95%にする。 → 100% ○
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査における「人の役に立つ人間になりたいと思うか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を95%以上にする。 → 100% ○
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査における「人が困っているときは、進んで助けていますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を95%以上にする。 → 98.4% ○

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査における〔国語〕の問題において、「書く」の領域の正答率を令和4年度と比較して5ポイント向上させる。
→ +0.8p × (R4 41.7% R7 42.5%)
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査における〔数学〕の問題において、「数と式」の領域の正答率を令和4年度と比較して5ポイント向上させる。
→ -8.9p × (R4 38.1% R7 29.2%)
令和7年度の全国学力・学習状況調査における「家で学校の予習をしていますか」「家で学校の復習をしていますか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合をそれぞれ55%以上にする。
→ 53.8% (校内アンケート) ◆ (R6 49.5%)
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査における「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、65%以上にする。 → 57.8% ×
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査における「学校の授業時間以外に普段(月～金曜日)、1日当たりどれぐらいの時間、勉強をしますか」の項目において「全くしない」と答える生徒の割合を、10%以下にする。 → 6.3% ○

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度までに、授業日において学習者端末を毎日使用した割合(学校行事等でICT活用に適しない日を除く)を100%にする。 → 100% ○

【その他】

- 令和7年度までに、小中一貫校大池学園として、小学校と連携してユネスコスクール認定を目指す。 → 令和7年7月 認定 ○

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

施策目標を達成するための年度目標（中学校）

- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を95%以上にする。

→ 98.9% ○

- 年度末の校内調査において、「学校の規則を守っていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を95%以上にする。

→ 95.4% ○

- 年度末の校内調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を95%以上にする。

→ 98.0% ○

学校園の年度目標

- 校内調査において、生徒向けアンケート「命の大切さや社会のルールについて学んでいる」の項目で肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。

→ 98.4% ○

- 校内調査において、生徒向けアンケート「自分には、良いところがありますか」の項目で肯定的に回答する生徒の割合を85%以上にする。

→ 89.9% ○

- 人格形成の基礎を培うため、感性や創造力、自己を表現する力を育む情操教育を推進し、文化・芸術に触れ、素晴らしさを体験させる行事を実施する。また、合唱コンクールを行うなど、音楽を通じて子どもたちの表現力や情操を豊かにする。

→ 車いすダンス鑑賞7月4日、歌舞伎鑑賞7月8日、国際クラブ発表会10月24日、
作品展示鑑賞・合唱コンクール10月31日、吉本漫才講座3月18日、○

- 連携型小中一貫校として、円滑な接続を実現するために、生徒と児童の交流を行い、体系的な実践を推進する。

→ 部活動交流5月1日、教科授業体験11月5日、小中交流授業12月3日・12月4日・
12月11日、○

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

施策目標を達成するための年度目標（中学校）

- 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を前年度以上にする。（前年度 48.4%）

→ 46.7% ×

○ 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.1 ポイント以上向上させる。

(前年度 1 年国語 0.99 数学 0.91 2 年国語 0.86 数学 0.88)

→ **3 年生 (国語 86.4p⇒84.4p (-2.0p) × ・ 数学 87.7p⇒84.2p (-3.5p) ×)**

○ 大阪市英語力調査における C E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合 (4 技能) を前年度以上にする。(前年度 32.7%) → **40.9% ◎**

○ 年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を前年度以上にする。(前年度 56.3%) → **51.8% ×**

学校園の年度目標

○ 英語教育について、英検 (実用英語技能検定) 実施に向け、個々の昇級目標を明確にすることで動機づけを行い、英語力を起点に学習意欲を高め、学力全体の向上に取り組む。 → **10月3日に全校で実施 ○**

○ 連携型小中一貫校としてのカリキュラム作成を進めるとともに、ユネスコ会議の開催や教職員研修を踏まえ、ユネスコスクール認定に向けた学びの一貫性を目指す。

→ **7月22日連携型小中一貫校としてユネスコスクール認定決定 ○**

【学びを支える教育環境の充実】

施策目標を達成するための年度目標 (中学校)

○ 授業日において、生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50% 以上にする。〔ただし、学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く〕

→ **1 月末平均 40.0% × (前年度同時期 13.4%、本年度 1 月月間活用率 60.0%)**

※7割以上が活用した日数の 11 月 1 ヶ月の割合 100%

○ 第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 2 を満たす教職員の割合を前年度以上にする。

→ **11 月末平均 80.7% ○ (前年度同時期 72.4%)**

学校園の年度目標

○ 授業日において学習者端末を毎日使用した割合 (学校行事等で ICT 活用に適さない日を除く) を 100% にする。 → **100% ○**

【その他】

学校園の年度目標

○ 小中一貫校大池学園として、多文化共生教育、平和教育、環境教育について小学校と連携し、ユネスコスクールの認定への取り組み状況を前年度よりも進める。

→ **7月22日ユネスコスクール認定、多文化共生を軸に取り組みを推進 ○**

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

設定した中期目標はすべて目標を達成できた。また、年度目標もすべて達成できたが、前年に続き肯定的ではない少数回答への注目を忘れてはいけない。肯定的な回答に至らなかった原因を探り、課題認識を堅持して取り組みを継続することが重要である。

現在の状況は、人権侵害な行為は複雑多様化しており、ゆるぎない人権感覚として全教職員が「いじめはいつ起こってもおかしくない」という認識により不合理な行為の早期発見に努め、生じた事案には「いじめ対策委員会」の開催や、関係機関との連携を視野に入れながら組織的に対応するように努めた。毎月の「いじめアンケート」による状況把握や教育相談活動を怠らず、悩みを持つ生徒の理解に努めながら、学校規則遵守や規範意識の向上に引き続き取り組みを行う。

生徒アンケートによる「命の大切さや社会のルールを守っている」の肯定的な回答の割合は高く、自尊感情や生命を大切にする心の醸成は進んでいる。

人格形成を司るべく情操をはぐくむ教育を進める方策として、教科学習や学年単位で芸術的、伝統的芸能や演芸に触れる行事や取り組みによる教育効果も確認できる。

給食の提供では、食物アレルギーへの注意を怠らず、生徒・保護者への啓発を進め教職員の日常点検を行い、安全な提供を行うことができた。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

中期目標の達成状況について、家庭での学習習慣づけに継続して取り組んだ部分については達成できた。しかしながら、学力を数値として検証する部分については、当初の目標には至らなかった。年度目標とともに、学習習慣や学習意欲向上などの定性的な判断については効果がみられた。

学力について、総括的に取り組みを検証した場合、カリキュラムマネジメントの観点に沿った教育活動を推進し、相互授業参観の時期を設定し、指導方法を工夫する機会や教職員研修への参加により、一層の「主体的・対話的で深い学び」につながる授業展開に重点的に取り組んだ。

中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において前年と比較すると **79期生の国語は-2.0ポイント、数学は-3.5ポイント**という結果となった。ひき続き指導方法を工夫しながら個に応じた指導を推進していく。

学校評価アンケートの話し合い活動についての肯定的回答は、**91.4ポイント**と前年度を5ポイント上回り改善がみられた。学校の年度目標に関して、「学校の授業の予習や復習をしている」の肯定的回答の割合は**生徒 53.8%・保護者 51.3%**となり、昨年度（生徒 49.5%・保護者 46.2%）から年々向上している。しかしながら英検受験による学習意欲は **55.8%**（昨年度 66.9%）と、昨年度を下回っている。

また、体力向上について、体育大会や駅伝大会への取り組みによるスポーツへの関心を高めてきた。全国体力運動能力調査の体力総合点は、**男子 42.6(R6:42.3)、女子 45.7(R6:46.5)**と、男子は全国平均の値を上回ったが女子の持久力と柔軟性に課題が見られた。今後、小学校との連携を推進しつつ、学力および体力向上に努めたい。

【学びを支える教育環境の充実】

中期目標として、ICTの活用率を高め、授業や生徒指導作業の効率化は大いに進んだ。また、年度目標に掲げた教職員の勤務時間についても、作業内容の効率化とともに個々の教職員の意識改革も進んだと判断できる。

特に、本年度は教職員の働き方について、平日の勤務時間の超過は昨年度よりも大きく減少したが、部活動の指導時間は、春季秋季総合体育大会や、総合文化祭やコンクールなど、公式試合や発表会に向けた練習に土日休日の時間が費やされるため、改善もみられるが、個々の教職員の勤労意欲との均衡が課題である。

ストレスにつながる勤務について教職員相互が健康面への配慮を行う環境であるため確実に進歩がみられる状況である。

また、ICT機器の活用が進み、教材作成や業務処理の効率が高まり、個々の教職員への負担軽減は図られているが、工夫することでさらに環境改善は進められると判断できる。

大阪市立大池中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

| | |
|---------------------|------------------------|
| 評価基準 A：目標を上回って達成した | B：目標どおりに達成した |
| C：取り組んだが目標を達成できなかった | D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標 | 進捗状況 |
|--|------|
| <p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>施策目標を達成するための年度目標（中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を90%以上にする。 ○ 年度末の校内調査において、「学校の規則を守っていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を95%以上にする。 ○ 年度末の校内調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を95%以上にする。 <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 校内調査において、生徒向けアンケート「命の大切さや社会のルールについて学んでいる」の項目で肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。 ○ 校内調査において、生徒向けアンケート「自分には、良いところがありますか」の項目で肯定的に回答する生徒の割合を85%以上にする。 ○ 人格形成の基礎を培うため、感性や創造力、自己を表現する力を育む情操教育を推進し、文化・芸術に触れ、素晴らしさを体験させる行事を実施する。また、合唱コンクールを行うなど、音楽を通じて子どもたちの表現力や情操を豊かにする。 ○ 連携型小中一貫校として、円滑な接続を実現するために、生徒と児童の交流を行い、系統的な実践を推進する。 | B |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
|--|------|
| <p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>『いじめを考える日』の全校集会において、いじめについての校長講話を行い、それをふまえて、各学年・各クラスでいじめについて考える取り組みを実施する。常に学校全体でいじめの未然防止・早期解決について取り組む。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、肯定的に「思う」と回答する生徒の割合を95%以上にする。</p> | B |
| <p>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>インターネット上でのいじめの防止に向け、SNSのかかわりやネット依存に関する保護者・生徒向けのSNS啓発講演会を実施し、学校・家庭と連携していじめについて考える機会を持つ。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>校内調査において、生徒向けアンケート「命の大切さや社会のルールについて学んでいる」の項目で肯定的に回答する割合を90%以上にする。</p> | B |

| | |
|--|---|
| <p>取組内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 『人権教育年間計画』『道徳年間学習計画』に則り、さらなる多文化共生教育の充実を推進し、互いに違いを認め合い、尊重し支え合う集団作りに努める。</p> | B |
| <p>指標 校内調査において、生徒向けアンケート「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。」の項目で肯定的に回答する割合を90%以上にする。</p> | |
| <p>取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】 連携型小中一貫校として、円滑な接続により安心して登校できる環境を作るため小学校との交流を促進する。</p> | B |
| <p>指標 小中学校の児童生徒交流を年間6回実施し、9年間を見通した教育実践を実施する。</p> | |
| <p>取組内容⑤【基本的な方向2 豊かな心の育成】 心豊かな生徒を育むため文化芸術と触れ合う体験的な取り組みを実施し、芸術の素晴らしさを感じとり豊かな情操を培う。</p> | B |
| <p>指標 校内調査において、生徒向けアンケート「合唱コンクールや展示発表をすることで表現力がついたり、感動したりすることができましたか。」の項目で肯定的に回答する生徒の割合を85%以上にする。</p> | |
| <p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> | |
| <p>① 校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、肯定的に「思う」と回答する生徒の割合は98.9%と目標を上回った。 日々の生活での言動や行為について意識を高めるよう取り組みを進める。</p> <p>② 生徒向けアンケート「命の大切さや社会のルールについて学んでいる」の肯定的回答の割合は98.4%と目標を上回った。相談活動やアンケートの回答に注意しながら取り組んでいく。</p> <p>③ 生徒向けアンケート「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。」の肯定的回答の割合は92.9%と目標を上回った。思いやりの心が高まってきている。</p> <p>④ 小中の交流を5/1部活動体験交流、小中教員研修会交流、11/5体験入学、兄弟学年交流(全3回…12/3, 12/4, 12/11)、児童部活動入部など10回以上行った。</p> <p>⑤ 「合唱コンクールや展示発表をすることで表現力がついたり、感動したりすることができましたか。」への肯定的回答の割合は95.0%と目標を上回った。10/31実施</p> | |
| <p>次年度への改善点</p> | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・「人を大切にする心の醸成」をアピールし、生命を大切にするという全市共通目標は達成できている。不登校やいじめなどの今日的課題を踏まえ、安全で安心な環境提供に努めつつ、各アンケート項目における肯定的でない回答に注目し課題解決への工夫が必要である。 ・小中一貫校として、教職員連携の重要性を認識し、担当者間の定期的な会議と、児童と生徒との交流をさらに進め、小中一貫した教育カリキュラムの完成に努めていく。 ・本年度は学校医参加による「学校保健委員会」を開催し、生徒が自分自身を考えられた。食育への関心も高める取り組みを工夫し、健康教育を基本とした自己管理の意識をさらに高めていく。 | |

| 年度目標 | 進捗状況 |
|---|------|
| <p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>施策目標を達成するための年度目標（中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を前年度以上にする。（前年度 48.4%） ○ 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.1 ポイント以上向上させる。（前年度 1 年国語 0.99 数学 0.91 2 年国語 0.86 数学 0.88） ○ 大阪市英語力調査における C E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合（4 技能）を前年度以上にする。（前年度 32.7%） ○ 年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を前年度以上にする。（前年度 56.3%） <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 英語教育について、英検（実用英語技能検定）実施に向け、個々の昇級目標を明確にすることでの動機づけを行い、英語力を起点に学習意欲を高め、学力全体の向上に取り組む。 ○ 連携型小中一貫校としてのカリキュラム作成を進めるとともに、ユネスコ会議の開催や教職員研修を踏まえ、ユネスコスクール認定に向けた学びの一貫性を目指す。 | B |
| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
| <p>取組内容⑥【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>授業研究や校内研修において『1. ICT活用』・『2. アクティブラーニング』・『3. めあて・まとめの提示』を行うこと定め、全教員が研究授業を行い、授業改善に努める。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>校内調査における生徒向けアンケート「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていますか」の項目で、肯定的に回答する生徒の割合を、80%以上にする。</p> | B |
| <p>取組内容⑦【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>連携型小中一貫校として、9年間を見越した教育課程を検討し、学びの一貫性を目指す。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>単元配列表を小中学校それぞれ作成し、相互授業参観や研究授業に参加したり、小学校で必要な箇所の出前授業を実施したりする。</p> | B |

| | |
|--|---|
| <p>取組内容⑧【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>校内第5回実力テストに代わる共通到達度確認問題テストを実施し、個別の学力到達度を図り個別の課題を詳細に把握することにより学力全体の底上げを図る。</p> | |
| <p>指標</p> <p>中学3年生の自己実現に向けた意欲を高め、生徒向けアンケート「将来の夢や目標を持っている」の項目で肯定的に答える生徒の割合を70%以上にする。</p> | B |
| <p>取組内容⑨【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>体力・運動能力が高まるよう、体育の授業や校外行事等の学校行事を精選し、安全への配慮を踏まえた指導内容に工夫をし、体力合計点を向上させる。</p> | |
| <p>指標</p> <p>全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点における課題を克服するため、男女とも、前年度合計点（男子42.3点、女子46.5点）より増加させる。</p> | B |
| <p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> | |
| <p>⑥生徒向けアンケート「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていますか」の肯定的回答の割合は91.4%と目標を上回った。総合的読解力を高める取組みを進め、自己肯定感につなげていく。</p> <p>⑦実施期間を二回設定し、全教員が授業研究を教職員間相互で実施できた。また、相互授業参観や研究授業について連携した。</p> <p>⑧職場体験学習などキャリア教育への取組みにより、生徒向けアンケート「将来の夢や目標を持っている」での肯定的割合は78.8%と昨年度以上に目標を上回った。</p> <p>⑨今年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点は、男子42.6点、女子45.7点となり男子は目標を上回ったが、女子は持久力における数値的に課題が残った。</p> | |
| <p>次年度への改善点</p> | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・相互授業参観週間では、「主体的・対話的で深い学び」やICTを積極的に活用しながら、総合的読解力の向上に継続して取組みを行った。自習室の活用が徐々に進んできたので、家庭学習・自主学習習慣の定着にさらに結び付けていきたい。 ・英検の全校生徒悉皆受験により、目標達成感を体験させ学習意欲の向上につながってきており、引き続き自己肯定感の高まりにつなげていく。 ・学年ごとに、学力・体力の違いはあるものの、個々の生徒理解に努め、取組みの改善など個に応じた指導方法を工夫するとともに、小学校との連携を深めながら、バランスよく体力が向上するよう取組んでいく。 | |

| 年度目標 | 進捗状況 |
|---|------|
| <p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>施策目標を達成するための年度目標（中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕 ○ 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を前年度以上にする。 <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業日において学習者端末を毎日使用した割合（学校行事等でICT活用に適しない日を除く）を100%にする。 | B |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
|---|------|
| <p>取組内容⑩【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>自学自習の習慣の確立を図るため、校内の学習環境整備やすきま学習の啓発に努め、オールタイムで個々の状況に対応できる自習室の活用を推進を行う。</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>指標</p> <p>校内調査において、生徒向けアンケート「自習室で自分のペースで自学自習している」の項目で肯定的に回答する生徒の割合を前年度以上にする。（前年度 43.2%）</p> | B |
| <p>取組内容⑪【基本的な方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】</p> <p>1人1台端末の環境を生かし、個別最適な学び協働的な学びの実現に向け、学習者端末を積極的に使用する取組を行う。</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>指標</p> <p>授業日において学習者端末を毎日使用した割合（学校行事等でICT活用に適しない日を除く）を100%にする。</p> | B |
| <p>取組内容⑫【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>「学校における働き方改革推進プラン」に基づく各取組の効果検証。</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>指標</p> <p>ゆとりの日を設定し、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を前年度以上にする。（前年度 68.9%）</p> | B |

| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 |
|--|
| <p>⑩生徒向けアンケート「自習室で自分のペースで自学自習している」の肯定的回答の割合は 62.0%と目標を上回った。自主学習の意識を高める指導を継続する。</p> <p>⑪授業日に学習者端末を毎日使用した割合は 100%と目標を上回った。</p> <p>⑫「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 2 を満たす教員の割合は 12 月時点で 80.7%と昨年度同時期 68.9%を上回った。</p> |
| 次年度への改善点 |
| <p>学習者端末の家庭での使い方や相談機能の利用など、さらなる活用を拡充していく必要がある。教職員の勤務負担軽減への取り組みも工夫していく。</p> |

| 年度目標 | 進捗状況 |
|---|----------|
| <p>【その他】 学校園の年度目標 ○ 小中一貫校大池学園として、多文化共生教育、平和教育、環境教育について小学校と連携し、ユネスコスクールの認定への取り組み状況を前年度よりも進める。</p> | B |
| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
| <p>取組内容⑬【基本的な方向 2 豊かな心の育成】 小中一貫校大池学園として、ユネスコスクールの申請に向けて、多文化共生教育、平和教育、環境教育について小学校と連携し、教育課程を整備する。</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>指標 毎月 1 回ユネスコ会議を開催し、認定に向けて、ユネスコ憲章を意識した教育内容を整備する。</p> | B |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| <p>⑬7 月 22 日ユネスコ本部から連携型小中一貫校ユネスコスクール認定を達成できた。 管理職、コーディネーターを中心とした教職員の打ち合わせ会議を毎月実施し小中間の連携に務めていく。</p> | |
| 次年度への改善点 | |
| <p>小学校での実践を引き継ぎ、ユネスコの精神を児童生徒が共有できる取り組みを進めていく。 引き続き、国際理解教育の観点からの小中一貫した教育課程カリキュラムの構築を目指し、出前授業・行事・部活動など工夫した取り組みを積極的に実施していく。</p> | |